

『ぱんだより』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

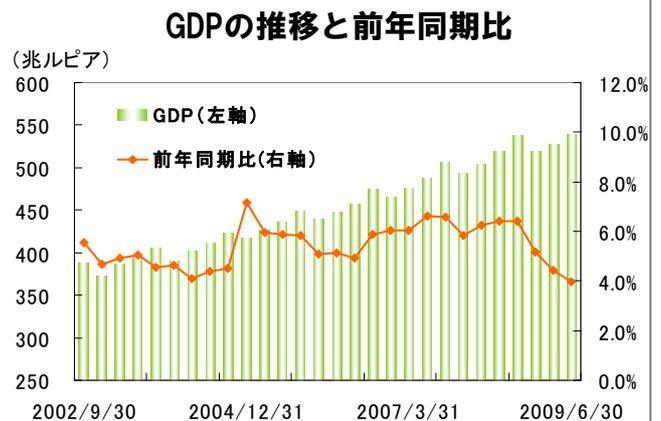
第38号(2009年9月3日)「癒しの島国、インドネシア」



安定的な成長

インドネシアは約2億3,000万人の人口を有する巨大な国です。中国やインドと比較すると、世界経済の中においてはまだそれほど大きな影響力はありませんが、ここ数年非常に安定的な成長を見せています。

2002年9月からのGDP成長率(前年同期比)は、常に4%以上で、平均では5.4%と高い成長となっています。金融危機により経済成長は若干鈍化したものの、依然として高い成長を維持しています。



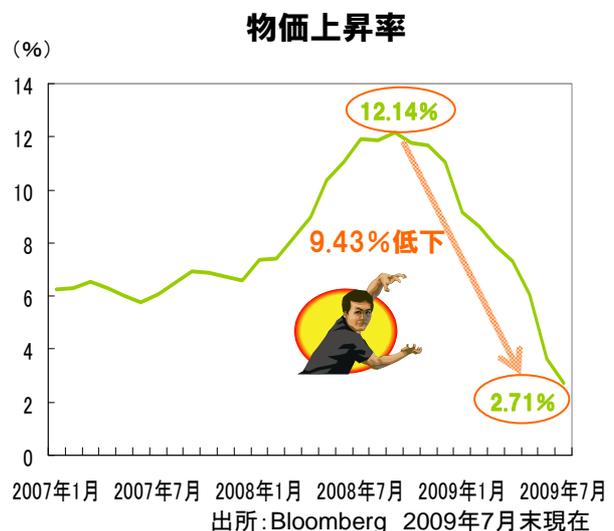
出所: Bloomberg 2009年7月末現在

成長の鍵はインフレ率

豊富な労働人口を有するインドネシアですが、内政の不安定さと高い物価上昇率は、同国の経済成長の妨げとなっています。2008年9月の物価上昇率は、12.14%に達し、労働争議の多発をもたらしました。

しかしながら、昨年は、世界的な金融危機の影響を受け、物価上昇の勢いにも歯止めがかかりました。2009年7月には、2.71%まで物価上昇率は低下しています。それに加え、ユドヨノ大統領が7月の選挙で国民から圧倒的な支持を受け、再選したことで、内政の不安定要素も大幅に緩和されました。

内政の安定化と現状の物価上昇率を見ると、今後の健全な経済発展が予想され、海外投資家の投資先としても非常に魅力的な国の一つと言えるのではないのでしょうか。



出所: Bloomberg 2009年7月末現在



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



好調な観光業

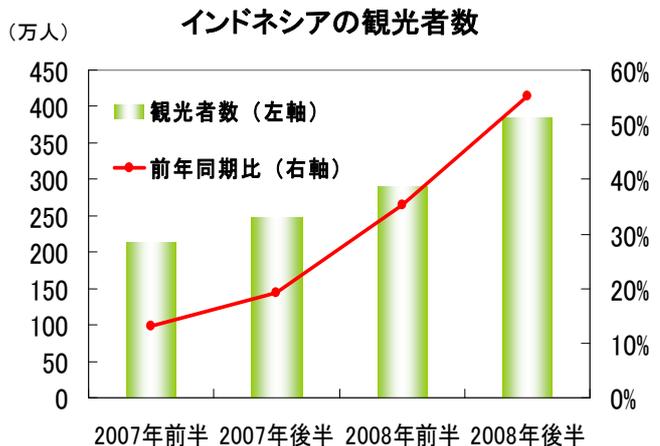
インドネシアという言葉は、ギリシャ語の「インドス(indos)」と「ネソス(nesos)」という二つの単語から成っており、「東インドの島々」という意味を持っています。インドネシアは世界最大の島国であり、バリ島をはじめ17,000以上の島々から成り立っています。年平均気温は25度前後であるため、リゾート名所として、世界中の人々から愛されています。

同国の観光業は、世界的景気悪化の影響により成長の勢いこそ若干鈍化したものの、観光客数はここ2年で急激な伸びを見せており、2009年1～6月においても前年同期比で依然プラスを維持しています。特に名所バリ島の2009年6月の観光者数(19万617人)は、単月で過去最高記録を更新しました。まさに不況を忘れさせる好調ぶりです。

癒しと情熱の島『バリ島』

多くの日本人にとってバリ島の認知度は、インドネシアという国の認知度よりもはるかに高いようです。バリ島は、日本人に限らず世界各国の癒しと情熱を求める人々が憧れている島なのです。

壮大な緑に囲まれ、川のせせらぎを聞きながら、南国風のマッサージを楽しむ、というのがバリ島での一般的な楽しみ方ようです。もちろん、癒しだけではなく、サルや鳥の鳴き声を模倣し、「チャッ」「チャッ」というような発声をするバリ古典舞踊の最も有名な「ケッチャクダンス」も人気があります。一度体験すれば、インドネシア人の情熱が伝わってくるはずですよ。



出所: Bloomberg 2009年7月末現在



(編集後記) 今後インドネシア経済が「ケッチャクダンス」のように熱くなっていくことを期待しています。9月の連休は、バリ島旅行を検討してみたいはいかがでしょうか。

(告られタイ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。